

『男子』

泉 寛介

キャスト

女たち … 8人の女

※セリフは誰がどのセリフを言ってもいい。  
複数で言ってもいい。

8人の女がさまざまところから出てくる。  
初めから舞台にいる者もいる。

開演時間に前説が行われる。

会場内の飲食・喫煙の禁止、許可のないビデオやカメラなどの撮影の禁止、携帯電話など音の出る機器の電源 OFF などのお願い。

演劇開始

1人の女、1～8までカウントする。

リズムが流れる。  
一拍ごとにセリフを言う。休むところもある。

女 どこだ。ここは。ここは、暗い。夜。孤独だ。何かあるか。何もない、誰かいるか。いない。なぜだ。暗い。夜か。ここは。どこだ。見えない。誰もいない。孤独だ。誰ひとりいない。暗い。見えない。感じない。細い。真っ暗だ。いるのか！いないのか！いるのか！どっちなんだ！誰かいるのか！誰かいるの！ねえ！どうなの！誰かいるの。暗いわ。とても。寂しいわ。静かだわ。何なの。ここは。どうして。暗いよ。暗いのはいやだ。いやだよ。怖い。誰かいるの、そこに。ねえ。誰か。誰もいないの。本当に。誰も、誰もおらんのか。何だ、こいつは。まわりには、何もなさそう。自分の声しか聞こえない。夢か。違う。暗い。どこだ。誰かいるなら返事をしてくれ。誰かー。いるのー。暗いー。誰かがーいる気がするー。いる気がするー。本当にー。いるのだろうかー。気がするだけで。本当に。いないのかもしれない。暗い。闇だ。悲しい。悲しいか。そうじゃないわ。少し、少し何かがともったような気がした。気のせい。暗い。やはり、暗いわ。おそらく。誰もいない。本当に。本当に？いないのか？いや、いるんじゃないか？いるのか？声はしない。息使いも？聞こえない。これは。本当に誰もいない。ねえ。ねえ。ねえ。暗いよ。ここは。誰もいないかどうかは見えないとわからない。見えたとしても本当にそこにいるのかはわからない。暗い。とても。本当に。動けない。何か見えた気がする。空を切る。手が。手。これは手なのか。なぜ。どこにも誰もいない。いや、いる。誰かいる。誰か。おそらく。暗い、が、誰かいる気がする。気がするだけで、本当は。誰もいないのかもしれない。でもいる。心配がする。なぜだ。声を聞かせてくれ。何か話しかけてちょうだい。もしくは、または、手を、手をにぎっててください。無音。この手は。握ってください。この手は、あるのか。本当に。本当に、あるのか。わからない。息はあるのか。わからないです。ごめんなさい。ここにいることは、何か罪を犯したからで、だからこそ、ここにいるのだろ

うか。そうよ、だから暗い。ここは。暗いここに入るのよ。1人。1人で。誰も。いるのに。そこにいるのに。何もわかってくれない。ここに、いるのに。誰も気づいてくれない。孤独だ。生きているのか。本当に。そうは思えない。暗いからだ。寂しいからだ。誰もいない。理解する者がいない。ここは、どこだ。どこなら納得できる。どこでもない。やはり。本当に暗い。孤独で暗い。暗い、先に進めない。先が、見えない。光も何も。見えない。感じない。何か、ひとつでも、触れさえ、まだいい。のに。孤独だ。誰も。いない。どうして。どうしてこうなったの。ねえ。教えてほしい。教えてくれない。どうやって、それをわかる。感じない。見えない、聞こえない。触れることはできない。何も、誰も。暗くて。よく見えない。ずっと。誰かが、光を差し出すようにみえて、またその先でそっと消えた。誰も。いない。消えていく。本当に。どこかにいる。見えない。でもいる。どうしてそっとしてくれない。の。でも見えない。し、感じない。感じないのに、暗く孤独だと感じる。そこにあるものを否定しているから、だから向こうからも否定される。お互いがお互いを否定し合う。拒否しあう。非難し合う。なぜ。その方がその居場所を感じられるからよ。本当に。孤独なのに。誰もいない。何か共有されることはない。共有という概念すらわからない。おそらく。おそらくという言葉も、ない。絶対も、ない。おそらくない。暗く聞こえない。底だ。底を感じる。足の、しびれた感じ。これは、立っている。立っている、座っている、のか、寝ているのかすらもわからない。暗い。見えない。何もできない。本当にここにいるのか。いないのか。本当に。足はある。手もある。口も、声が聞こえる。自分の声だ。音だ。何か聞こえた。遠くで。遠く、とても遠く。なくなった。消えていったわ。それは、消えていったわ。最初から、何もなかったんじゃないか、ないかな。おそらく。本当は、あった。人はいた。それでも見えない、聞こえない。触れあえない。いつそのこと大ぶりに叩いてほしい。それでも、そこに、誰かがいることが分かる。誰か。いる。痛みが証拠だ、それは。そうよ。足だ。足はある、どうぞ。どうぞ、叩いてみてください。痛みがあれば、いる。誰か。いる。否定されても。否定しなくて済む。否定しなくて済めば、否定されなくてすむかもしれない。本当に。そうであっても、誰かいることが、うれしい。つらくない。暗いから、ここは。冷たく静かだ。怖い。おそらく、誰か、いるのよ。誰か。声は聞こえる。痛みを感じてきた。気がする。痛みがじわじわと広がっていく。これは、足か。足だ。足が痛む。そうです。誰かいるのです。その誰かはきっとあなたを包み込んでくれる。暗い。浅はかな希望。浅はかなことは浅はかでとても、本当に、おそらく、あり得ない。あり得ないまま、朽ちていく。どんどんと、誰かに何かを言われようと、それは全部否定で。わからない。わかろうともできない。そんなこと。…突然、光。光だ。これは。本当に、光だ。明るい。まぶしい。白い。白い、気がする。目が、痛い。目が。目が。目が。目が。目が。目が。目が。目が。目が。目が。目が。目が。目が。目が。

目ざましが鳴っている。

男の部屋。

女、歌う。

女、止まる。

女 男がいる。

女 男がいる。

女 男子がいる。

女 男がいる。

女 男性がいる。

女 男がいる。

女 1人の男がいる。

女 1人の男がいる。

女 1人。

女 1人の男がいます。

女 1人。

女 1人の男。

女 1人。

女 1人。

女 1人。

女、1人、前へ出る。

女 ともだち欲しい。ともだち欲しくてたまらない。知り合いとかそういうやつじゃなく、ともだち。いやいるんだけどそういうともだちがない。そういうというのはどういうものなのかはうまく言えないし説明できないんだけどとにかくともだちが欲しいのですそうしないともうこのままどんどん自分が小さくなって小指くらいのサイズになってそしていつしかもうこの世界から消えて…

女 かゆい。

女 マンガ雑誌。

女 グラビア！

女 頭をかく。

女 くしゃくしゃトランクス。

女 いつ洗ってんの？

女 キノコ生えてそ。

女 ジメジメしたシメジ生えてそ。  
女 ケース割れ CD。  
女 DVD。  
女 エロいやつ？  
女 おっばい。  
女 あくびをする。  
女 カップ麺。  
女 ペットボトル。  
女 コンビニ弁当。  
女 食べた後。  
女 いっぱい。  
女 おっばい。  
女 いっぱい。  
女 目をしばしば、  
女 させる。  
女 しばしば。  
女 しばしば。  
女 しばしば、  
女 しばしば。  
女 目をごしごしする。  
女 ごしごし。  
女 ごしごし。  
女 ごごしし。  
女 ごごしし。  
女 ごしごし。  
女 ごごしし。  
女 午後七時？  
女 いや午前七時。  
女 ペットボトルのふたを開ける。  
女 テレビ、つけっぱ。  
女 犯人はボールのようなものでこじ開け  
女 こぼした。  
女 ティッシュ。  
女 くしゃくしゃ。  
女 電気つけっぱ。  
女 カットなってやった。くしゃくしゃしていたと供述。

女 ネットつなぎっぱ。  
女 もう一度、あくびをする。  
女 卒業アルバム。  
女 中学の？  
女 高校の？  
女 この子かわいい！  
女 立つ！  
女 尻をかく。  
女 尻をかく。  
女 尻をかく。  
女 尻を三回かく。  
女 実家からの段ボール。  
女 手紙は開封済み  
女 ほったらかし。  
女 アイドルポスター。  
女 おはよう。  
女 おう！  
女 トイレのドアを開ける。  
女 電気をつける。  
女 パチリ。  
女 が、つかない。  
女 なぜ。  
女 パチリ。  
女 パチリパチリ。  
女 電気は止められてないはず。  
女 ケータイはお客様の都合により止められている。  
女 つく。  
女 ついた。この喜びをつい誰に伝えようか。  
女 ツイッター？  
女 ツイッティイー！  
女 ログイン！  
女 トイレに入る。  
女 ズボンの前部分を下げる。  
女 同時にパンツもさげる。  
女 パンツ↑？  
女 パンツ↓？

女 おしっこだわ。

女 おしっこだわ。これ。

女 やばい。

女 やばいわ。

女 やばいやばいやばいって。

女 ここからは、音声のみでお届けいたします。

女たち じょろろろろろろろろろろろろ。じょろろろろろろろろろ。じょろ。じょろろろろろ。じょろ。

女 …少し、はずれた。

女 はねた。

女たち 光。光がはねた。光が放物線上に、ゆっくりと、便器をはずれ、はねた。自由だ。自由を表現した。そして、ゆっくりと、

女 つーつーつーつー。

女 ぴちやり、

女 ぴちやり

女 ちやり

女 ちやり…

女 ミルククラウン。

女たち 光輝く一滴のつゆ。ああ、なんと。

女 …汚い。

女 ふき取る。

女 流す。

女 小という字を見る。

女 小さいか…。

女 引く。

女 ヒくわ。

女たち しゅごーじゃ、じゃごー。

女 ごろごろごろころ。

女 ころ。

女 このままトイレの中で一生過ごそうか考える。

女 ドアを出る。

女 ドアを閉める。

女 ドアを開ける。

女 ドアを閉める。

女 ドアを開ける。

女 ドアを閉める。

女 ドアを開ける。  
女 ドアを閉める。  
女 ドア。  
女 ドアってなに。  
女 開けたり閉めたりできるもの。  
女 境界と境界をさえぎるもの。  
女 理想と現実。  
女 ドとア。  
女 ドとアの集合体。  
女 D・O・A。D・O・A。デッド・オア・アライブ。  
女 ドア。ドアーr。と一緒に。ドアーr。  
女たち ドアーr。  
女 ドアーrを、開ける。  
女たち ドアーrを、開ける。  
女 ドアーrを、閉める。  
女たち ドアーrを、閉める。  
女 ドアーr、ノブ。ドアノブ。  
女 ドアーrノブ。ドアノブ。  
女 取っ手。  
女たち 取っ手。  
女 取っ手。  
女たち 取っ手。  
女 トイレの取っ手。  
女たち トイレの取っ手。  
女 トイレットの取っ手。  
女たち トイレットの取っ手。  
女 トイレットッテ。  
女たち トイレットッテ。  
女 トレットテ。  
女たち トレットテ。  
女 とれたてのトレットテ。  
女たち とれたてのトレットテ。  
女 俺たちのとれたてのトレットテ。  
女たち 俺たちのとれたてのトレットテ。  
女 俺たちのとれたてのトレットテを取ってドアーrを開ける。  
女たち 俺たちのとれたてのトレットテを取ってドアーrを開ける。



女 グー。ベリグ。チョコベリグ。  
女 古。  
女 ドアのくだけり長くね？  
女 長い。  
女 長い。  
女 ドアだけに引っ張りましたな。  
女 バターン（叩く）  
女 手を洗います。  
女 顔を洗います。  
女 ひげをそります。  
女 ひげをそります。  
女 ひげをそります。  
女 この時誰かが襲ってきます。  
女 オラー！  
女 危ない！  
女たち シュッシュッシュッ…。

殺陣。

女 うっ。  
女 切れてる。  
女 ひりひりする。  
女 歯を磨きます。  
女 ファミガキ隊集まれー！

歯を磨くダンス。

ダンス中セリフ ハブラシを取り、ふたをまわし、ハブラシを持ちかえ、チューブを押す。  
ダンス後セリフ …ふわーい。

女 オエってなる。  
女 嘔吐。  
女 マニュアル。  
女 アニマル。  
女 マニュアルアニマル。  
女 マニマル。  
女 マニマル人間。

女 決められた生活。  
女 決められたリズム。  
女 決められ毎日。  
女 毎日がエブリデイ。  
女 流れてゆく。  
女 川のように柳のように。  
女 エブリデイ川柳。  
女 口ゆすぎ、タオルで顔ふき、着替えする。  
女 コーン！  
女 散らかった、洗濯物から、着替えをチョイス。  
女 ココーン！  
女 ケータイと、リュック片手に、ご出勤。  
女 コンコンコーン！  
女 靴をはき、踵トントン、ドアを出…ドアーr。ドアーr 出ーr る。  
女 なぜに巻き舌？  
女 タンなる気分なのであーる。  
女 タン？なる気分？  
女 気分デンプン今何分？  
女 え、7時半。  
女 時間ないよ！巻きで行って！  
女たち ガチャリバタン！ガチャリバタン！ガチャリバタン！ガチャリバタン！  
女 いってきまーす！  
女たち チャリリング！  
女 チリりんチリりん。  
女 何だよこいつどっちか寄ってよ。  
女 そうそうケータイ見てんじゃねーよ。  
女 スマホ両手で扱ってんじゃねーよ。  
女 ベルは？ベル？  
女 ベル鳴らすのなんか嫌なんだよ。  
女 鳴らすの恥ずいし、  
女 そうよ。この地味にブレーキキュッキュとかで気づいてくれよ。  
女 え、ちょっと待ってちょっと待ってこれこんな接近してるのに気付かないの。  
女 ありえねー。マジありえねー。  
女 何この女。  
女 なんなのこの女。  
女 あ、ケータイなおした。

女 気づきそう、気づきそう。気づきそう…。  
女 ってまたスマホ出すのかよ！  
女 メール来てんじゃねーよ。  
女 返信早いんだよ相手のやつ。  
女 ナニモンだよ！  
女 歩くのとスピード同じじゃねーか！  
女 あ、後ろからチャリ来てる。  
女 よかったー。  
女 え、なんで。  
女 先にその人行かせたら、気づいてよけてくれんじゃん。  
女 なるほど。  
女 ちりんちりん。他人ちりん。  
女たち い・ま・だ！  
女たち バシュー。ゾゾゾゾ・ワワワワ・ワワワワワ。ブン！  
女たち OH!YES! OH!YES! OH!YEEES!

1人の女、後ろを振り向く。

女 あ。  
女 どったの。  
女 あの人だ。  
女 それはたまに見かけるコンビニの店員さんで、とてもかわいくてとてもかわいい。  
女 何が可愛いのかは口ではうまく説明できないんだけど、まあまず笑顔の顔がかわいい。  
女 いつも笑顔であいさつをしてくれる。  
女 いらっしやいませー。  
女 少し困った顔も素敵だ。  
女 バイトなんでマジわかんないっす。はい。  
女 って何か、あれだツンデレだ。かわいくないのにかわいいみたいなの。  
女 俺のこと気があるのかな。  
女 んなわけねーだろ。  
女 とかいうことを考えているときがたまにあったりなかったり。  
女 不毛不毛。不毛布団に不毛地帯。  
女 モフモフしたセーター。  
女 …私服初めて見たな。  
女 …いいな。  
女たち OH!YES!

女 足どり軽くなる。  
女 チャリ早くなる。  
女 あの子小さくなる。  
女 このままどこまででもいける。  
女 ような気がしたけど本当はいけないのもわかっていて。  
女 距離の詰め方わからないから。  
女 別にそこまで距離つめたいわけでもないし。  
女 冬の空気は冷たくて。  
女 あの程度の子はどこでもいる。  
女 ただ俺の届く距離にいないだけでやんす。  
女 近場で手を打つ長男。  
女 長男。  
女 法事を気にする三男。  
女 三男。  
女 翼を失くした次男。  
女 次男。  
女 男子三兄弟。  
女 ハイブラザー！どこ行くんだい？なんだいそのへっぴり腰は？漕ぎ方を忘れちゃったかい？  
女 おいおいふざけるのはよしてくれよ！俺のチャリをなめるなよ！俺はどこまででもいけるのだぜ！？具体的には工場まで。いえー！

女たち 右足 片足 手足 左足 右足 片足 手足 左足  
右足 片足 手足 左足 右足 片足 手足 左足  
右足 片足 手足 左足 右足 片足 手足 左足  
右足 片足 手足 左足 右足 片足 手足 左足

女 両手に  
女 力を  
女 引き込む  
女 頭  
女 前に  
女 のめって  
女 首降る  
女 腰降る  
女 土蹴り  
女 地面

女 地球  
女 ズドン  
女 風の  
女 壁を  
女 破って  
女 視界  
女 止まって  
女 進んで  
女 後ろに  
女 進んで  
女 去って

女たち 右足 片足 手足 左足 右足 片足 手足 左足  
右足 片足 両足 左足 軸足 ぬき足 差し足 忍び足  
地面 地球 台風 マグマ 風に 吹かれて そのまま このまま

女 キー！  
女 キッ。  
女 ザッ、  
女 ガチャ  
女 チャリチャリチャリ  
女 カチャン  
女 工場（こうば）。  
女 コトバ。  
女 コトバの集合体。  
女 裏口にチャリをチャリっと止めて、裏さびれた錆びたドアを開ける  
女 ナイスメルがツーンとする、地下道のような廊下を歩く  
女 右から三番自分のロッカー、さびれて錆びたわびさびロッカー  
女 ドアを開ける  
女たち ガチャリング！  
女 これが彼の毎日のはじまり。  
女 エブリディングオープニング。  
女 何のこたない、普通のアレ。  
女 たまに夢見て朝起きて、チャリで職場に向かいます  
女 工場で働きめしくって、あの子を思い多少寝る。  
女 そしてまたまた夢を見る。  
女 あくまでたまにね。

女 特別目立った彼じゃない。事件を起こすわけでもない、この後自殺をするわけない。  
女 例のアレは続いてく。この後ずっと続いてく。  
女 いやがおうにも。  
女 続いてく。  
女 きっと一生続いてく。  
女 じゃあ物語る必要はなくね？

1人の女、リュックをロッカーに入れる。

女 そりゃ一理あるかもね。  
女 そんなのお金になんないし。  
女 まあでもいいじゃんそんなこと。  
女 今日はちょっと違うかもだし。  
女 昨日のアレとは違うかもだし。  
女 そんなこんなのオープニング。  
女 考えながらのオープニング。  
女 さてここでクエスチョニング。  
女 てれれてれれてれれてれれてーん

女、ロッカーの扉を閉める。

女、作業を始める。

作業はまず伝票を上の方からもらい、そこに書かれている部品を棚から取り、チェックし  
梱包するというもの

女たち バタリング！

女 今ドア何回目？

女 5回目！

女 ブブー！

女 6回目！

女 ブバー！

女 ザ！13回目！

女 ババー！

女 誰がババアだこら。

女 ザ・おぬし。

女 はいわかる人、わかる人いないかわかる人、買うよ買うよー。

女 わかりませーん。

女 ポジティブシンキングターイム！  
女 カッチカッチカッチカッチ…  
女 仕事中…仕事中…仕事中…  
女 だからわかんないって一でもがんばろう生きてて良かった！  
女 ポジティブー。  
女 正解は？  
女 数えてません。  
女 え？  
女 数えてません。数えませんよ！そんなもの！  
女 なんだとやんのかこらァ！  
女たち おいやめろ！  
女 じゃあ仕方ないよね♪  
女 うん♪  
女 でも待てよ？一日何回ドアを開けるんだ？  
女 確かに考えたことないね。  
女 七万回くらいじゃない？  
女 多くね？  
女 こないだ私数えたら11回しか開けなかったよ。  
女 数えてんなよ。  
女 てかラスト開けっぱなしじゃん。  
女 ああ。  
女 閉めっぱなしだよ！  
女 え？  
女 湿っぽい話だよ！  
女 え？  
女 ネガティブシンキングターイム！  
女 仕事中…仕事中…仕事中…  
女 あ？  
女 ああしめっぱなね。  
女 略してシメツパね。  
女 訳してシメジの葉っぱね。  
女 訳すなよ。  
女 シメジって葉っぱあんの？  
女 ないんじゃない？  
女 高いよね野菜。最近。  
女 あの、かさのとことか。

女 アレ、葉？  
女 シメジごはんっておいしいよね。  
女 私キノコ嫌い。  
女 シメジだけにね。  
女 大きくなれんぞ、ぎゅんぎゅんぎゅんって。  
女 うまくねーよ。  
女 うまくねーよ。  
女 あと、1人増えたりとか。  
女 増えねーよ。  
女 ていうか1人足りなくね？  
女 マジで？  
女 バイトの留学生休み？  
女 トイレじゃない？  
女 こここん、ドウユウエンター？  
女 英語。  
女 アーユーヒア？  
女 空いてるじゃん。ガチャリ。  
女 アーユーヒア？  
女 一年何回ドアを開けるんだ？  
女 自動ドア入れて？  
女 一生で何回ドアを開けるんだ？  
女 759201回。  
女 マジで？  
女 なごくにれいいー。  
女 何それ。  
女 なごがくにれでいいーっとなる。  
女 え、だから何それ。  
女 てか一回足りなくね？  
女 あ。

1人の女、弁当箱を開ける。

女 カバリ。  
女 あ。  
女 うううーうううー。  
女 とかとかネガティブ考えてたら午前はあっと過ぎすぎてお昼にお昼になりますた。



女 彼は弁当食べ始める。  
女 いつもおんなじ時間です。  
女 お昼のサイレン鳴るギリ前。  
女 弁当箱をカパリと開ける。  
女 時間を計って速攻で。  
女 お昼時間を有意義に。  
女 ちょ弁当箱一回に入ってるの？  
女 とにかくサイレン鳴ったのです！  
女 タイムトライアル！  
女 ぷあー！  
女 5分前！

1人の女、弁当を食べ始める。

女 コケコッコー。  
女 卵！  
女 それ朝。  
女 USA？  
女 それウサ。  
女 米国。アメリカ。  
女 コメリカ。  
女 ご飯と梅干！  
女 コメリカの中にアカい血が一滴で日の丸弁当かー。  
女 わお社会を切ったね！  
女 4分前！  
女 切れてるか？  
女 切れてねーよ！  
女 キレてんじゃない。  
女 キレやすい若者たち。  
女 キレにくい熟女たち。  
女 だれが熟女どころら。  
女 煮物！  
女 熟すっていい言葉ジャン。  
女 3分前！  
女 じゅくじゃ、  
女 じゅくじ、

女　じゅくじゅ、  
女　じゅくじえ、  
女　じゅくじょ！  
女　なんだそれ！  
女　たまりませんな。  
女　たまるか！  
女　土佐弁でたまらんの意。  
女　2分前！  
女　とまりませんな。  
女　食欲が？  
女　妄想が。  
女　ネガティブな。  
女　1分前！  
女　止まるか！  
女　言葉が。  
女　止まらねえ！  
女　空想か？  
女　抽象か？  
女　よくわかりませんな！  
女　わかりません！  
女　10秒前！  
女たち　ブブブ！ブブブー！人として！ブブブ！ブブブー！人間、ブブブー！  
女　さあ、ラスト！

1人の女、ゆっくりとごはんを口へ

女　ゆっくりと、今…短いストロークから…、ここで、決まるのか、入れたー！

女たち、歓声。

女　ここ一番で入れたー！人間！最後の一口！人間！最後の一口！人間、金メダル！タイムは？

女　自分新！自分新記録ー！

女　今のお気持ちは？

女　ハア、ハア、…おいしいです。

女　今回の勝因は？

女 ハア、…梅干しの種を、いつ、あの、いつ捨てようかと。あそこで、捨てれて。  
女 この喜びを一番に、誰に伝えたいですか？  
女 ハア、ハア、ハア、…そうですね、あの、いつも行く、コンビニのあの子に。あの、これ、あたたためてもらった、あの、はい…あの子に。  
女 は？  
女 …あのさ自分さ、ダメじゃん？  
女 え？  
女 え、声かけたことあんの？  
女 いや、ま、あの、声は小さいですけど。あの、おはようと心の中で言ってるのって聞こえませんか？  
女 聞こえるわけねーべ。  
女 あ、はい。  
女 え自分なんか取り柄あんの？  
女 自慢できることとか。  
女 や、いや…あ、あの、えーと、えー、ああの、昔あの、小学校のとき、あの、絵で賞状もらいました、賞選ばれて、  
女 却下。  
女 あ、中学の時、古文のテストでクラス4位とったことありま  
女 却下。  
女 あ、円周率3ケタ言えま  
女 却下！普通じゃん。  
女 はあ、あのさ、自分さ、自分自分、  
女 あ、はい。  
女 自分、友達とかいるの？  
女 ちょそれやばいって。  
女 いや、ま、そりゃ、知り合いくらいは。  
女 いや知り合いとかじゃなくて。  
女 ちょっとやめたげなよー。  
女 あ、はい。  
女 こう何でも話しあえる、みたいなさ、語り合える、みたいな。  
女 いや、  
女 困ったときに近くにいる、みたいな。  
女 秘密をさ共有してる、みたいな。  
女 自分の弱い部分さらけ出せる、みたいな。  
女 その人だったら、まあ仕方ないか許しちゃうかな、みたいな。  
女 いつも励ましてくれる、みたいな。

女 ふとした悩み打ち明けられる系、みたいな。  
女 …いや、それは、いない、すね。  
女 …ふーん。  
女 はい、はい、まあ。…あの、でもあの、  
女 何。  
女 普通いなくないですか。そういうのって。あの、まあよくいいますけどね、親友とかガチ友とかマブ友とか。でもそういうのって、結局まあ、なんていうか、体のいい、いや、あのあんまり口に出して言うんじゃないっていうか、あの、まあいい自分が言うのもなんなんですけど、まあ、そういうアレなんじゃないんじゃないかなって。はい、はあ、ほら、あの、友割とかそういうのしてるつつつても、まあ得するからみたいな。料金。そういう。損得感情的な、はい、まあ、完全そうとは言わないっすけど、損得っていうか、はい、あの、何でもそうじゃないですか。いや、お金とかじゃなくても、恋人とかでも。まあ、その人というと安心するっていうか、その人というと安心するからその人というっていうか。そういう。だから恋人やってる、みたいな、そういう系の。その。そういう。  
女 え？何が言いたいわけ？  
女 他人のためじゃなくて自分のためってこと？  
女 そういうって言いすぎだし。  
女 言いすぎだお。  
女 だおはやめろ。  
女 いや、まあ一部にはそんな側面があるっていうか  
女 そんなのさ、考えてするもんなの？  
女 いや、そこは何ていうか、いや別に考えてるわけじゃないんですけど、まあ、思うっていうか、そういう、その  
女 え、何が言きたいの？  
女 あ、ケンカ売ってんの？あ？  
女 いやだから、その、別に友達なくても生きていけますから、あの、はい。もういいですか、いけますから。いけますから、俺  
女 1人で  
女 1人で  
女 1人で  
女 1人で？  
女 1人で？  
女 いや、そりゃ実質は1人じゃアレですけど  
女 まあ、ともだちは、まあ  
女 なんかあったときどうすんの？  
女 いや、大丈夫すから

女 いや大丈夫じゃないでしょ。  
女 大丈夫ですから、あの、いいですか、もう。  
女 なんかあったら、  
女 事故とか  
女 病気とか  
女 老後とか  
女たち 何が起こるわからないんだから  
女 それさ、  
女 彼女とか絶対無理じゃん。一生無理じゃん。永久できるわけないじゃん。  
女 え、なんで。何が。  
女 何がじゃないでしょうかよ。  
女 え、マジでゆってんの？  
女 え、何が何が。  
女 無理じゃん。  
女 え、  
女 無理とか  
女 意味  
女 分かんないんすけど。  
女 欲しいの？  
女 え、彼女すか、いや、今は、まあ  
女 そういうのいいから。  
女 いや無理だって。  
女 え。  
女 幸せにできんの？  
女 無理。  
女 え。  
女 幸せに  
女 できんのさ？  
女 え。  
女たち 女の子。  
女 …そんなの、わからんし。  
女 孤独。  
女 う、うう、ううう、ううううー、ううううー。

女たち去る。

女 ごちそうさまでした。

女たち出てくる。

女 と、

女 1人心の中で言ってみる。

女 ひとりごちてみる

女 実はいただきますも口には出してない。

女 心の中だけ。

女 だって1人だもん。

女 ひとりごつ？

女 独り言？

女 古語古語。

女 独り言を言うの意。

女 1人、

女 言葉を、

女 言う。

女たち 1人、言葉を、言う。

女 おい、寝るな。

女 大殿ごもってんじゃねえ！

女 なにそれ。

女 高貴な方がお休みになるの意。

女 古語イエイ！古語イエイ！

女 自分が他人より上だと思し召しか？

女 古語イエイ！古語イエイ！

女 自分と他人と違うとでも思し召しか？

女 古語一語一語語！イエイエイエイエー！

女 何この空前の古語ブーム。

女 全平安時代が震撼した。

女 古き良き日本語。

女 フルキヨキポンゴ？

女 今は遠い。

女たち 物語。

女 懐かしい。

女たち 思い出の中。

女 あの時の

女たち 平安時代。  
女 何歳だよ。  
女 平安な時代だよ。  
女 小学校とか中学とか  
女 パードン？  
女 いつも周りに友達いたし  
女 パードン？  
女 中学るときコクられてるし、俺から振ったし。タイプじゃなかったし。  
女 アーハア。ノーキディング。  
女 今は昔。  
女 アーユーヒア？  
女 今は昔？  
女 今はイマでしょ。  
女 アーユーヒア？  
女 それ以前の問題デしょ？  
女 今やらないでいつやるんデスカあ。  
女 …明日から。  
女 残念。  
女 残念。  
女 残念。

女たち ♪残念無念な人生だ むしろ来世に期待しよう  
夢だ希望だ地位名誉 また明日  
いいないいな 権力と名声  
金にまみれて 沸き立つ欲望  
1人寂しく眠るんだろな  
1、2、3、4！  
現世は無理だし 来世も無理だ  
でんでんでんぐり返って ばいばいばい

女 日本こどく話。  
女 ただ！  
女 何？  
女 欲しいものはただ一つ  
女 愛？  
女 友情？

女 ともだち？  
女 さっぱりした寝起き。  
女 コケコッコー！  
女 お昼休みが終わりました。犯人に告ぐ！お昼休みが終わりました。半人前な犯人に告ぐ…  
女 …ともだちか。  
女 これはほんとに言いました。ごちそうさまのあと、1人ごちました。  
女 1人ごち！  
女 ううううー！ううううー！ううううー！  
女 終了のお知らせ。  
女 働けー！  
女 ピッピッピッ！  
女 ピーン！

1人の女、仕事にとりかかる。

女 ともだちのつくりかた。  
女 三年B組…  
女たち わー！わっしょいわっしょい！わっしょい！わっしょい！  
女 まず、知り合いを用意します。  
女 見た目を選んで構いませんよ。  
女 周りの評判を聞くのもいいかもしれませんね。  
女 知り合いがなかなかいない場合はどうしましょう。  
女 昨今、生きのいい知り合いはなかなか手に入りませんからね、  
女 その場合はネットで探しましょう。あとはバイト先の奥の方でござと隠れて着替えをしている場合もあります。  
女 そおっと近づくのがコツですね。  
女 近くまでいったら静かに。  
女 相手の鳴き声を聞きましょう。  
女 たいてい、鳴き声や泣き言しか言いませんからね。  
女 こちらが口をはさむのは厳禁、あくまで聞き役に徹しましょう。  
女 すると向こうから寄って来ます。  
女 マニアックな話題や特殊な趣味を持っているとより香ばしいともだちに仕上がります。  
女 うわあ、ここまで匂ってきそうですね。  
女 次に油を落とし強火で炒めます。  
女 この時、知り合いの周りに以前からのともだちがいるからと言って嫉妬の炎を燃やし



てはいけませんよ。

女 火に油ですね。

女 逆にこちらの心が痛められてしまいます。

女 ナルホド。

女 そしてさらに強火で、じゅー！じゅー！りあじゅー！りあじゅー！呪われろー！先輩の前ですべれー！

女 かなり強気ですね。

女 爆発させてもよいかもかもしれません。

女 男の嫉妬の方が強火なんですね。

女 男子コンロは弱火か強火しかありませんから。

女 ナルホド。

女 そして少し置きます。

女 距離を置くんですね。

女 少し寝かす。もしくは時代と寝る。とも言いますね。

女 専門用語で寝逃げですね。

女 ネットゲとネニゲ似てますがここでは違うので気をつけましょう。

女 少し置くと向こうから気になってメールとかしてきます。

女 押してダメなら引いてみる、恋愛と同じですね。

女 チッ。

女 **HAHAHA!**

女 そして、できあがったともだちに塩コショウで味付けをして、お皿に盛りつけます。クレソンを添えてもいいですね。

女 クレソン添えてクレソン。

女 …はい、

女 では最後にこれをこうしてこうやって、投げ捨てます！オラー！

女 簡単ですね。

女 はい。

女 もうお気づきですね。ともだちなんて自分で作るもんじゃない。知らない間になっているもの。

女 それが、トモダチ。

女 ともだちを作ろうなんて、そんなおこがましいことは考えないようにしてくださいね。

女 金輪際。

女 では、さようならー。

女 本当の意味でさようならー。

女 また来世で会いましょー。

女 グッドラック。



ルンって揺れて、平衡感覚がなんか、とれなくなる、みたいなの。いや、違うか。これは違うな。うん、ええ、進まないんですよ。進まない。あ、もう、これどうしたら立つの？立ってどうやるんだったっけとか、頭と足とに意識がぐるぐる入れ替わってる間にね、もう始まっちゃってるんですよ。それが。で、それ、見て。また見て。ずっと。見て。

女たち、きゃっきや遊ぶ。

女 とか、ずーっと考えていたら呼び出されました。

女 あんたなあ、何回間違えたら気が済むねん！ええんやで、こっちはあんたの給料計算間違えてもええんやで！

女 はい。あの、この伝票、上の伝票は数えて、下の伝票は

女 数えろ言うたら数えたらええねん！余計なことせんでええねん！

女 はい。あの伝票は上の部分だけ数えたらいいんですか。

女 数えろ言うてんねん！こっちが数えろ言うてんねん！こっちはこれで50年から生きてんねん！あんたみたいな半分くらいやろ！全然違うねん！わからへんか！

女 はい、すみません。

女 ほんまにわかってんのか。

女 あ、はい。

女 わかってへんやろ！

女 いえ、はい。

女 伝票は数えて渡したらええねん！わかったか？

女 はい。

女 ほな行き。

女 はい。あ、伝票はじゃあ上のこの数字だけで

女 数えろ言うてるやろ！何回言わすねん！もう行き！

女 はい。

女 上の青い伝票やで！社長に渡すんやで！もう私行くから！

女 はい。あ、伝票

女 上やー！

女 いや別のあの

女 田所さーん！

女 はい？何でしょう？

女 伝票やったって。

女 はい。わかりました。あれ、どうしましょう。

女 あ、あれはもうそやな好きにやって。

女 好きにですかあ？

女 もう好きにやっちゃってえ。  
女 わかりましたー。  
女 …言葉ってどうやって発するんだっけ。

1人の女、黙々と仕事を再開する。

女 孤独って別に悪くなくない？西洋じゃ孤独って崇高なものっていう側面もあるし、ただ俺の場合は、会話の始め方が、こう人と違うっていうか、自分の言いたいことは言いたいけどタイミングがあるし、逆に入りたくないみたいときあるし、それはだから会話の入り方とかが分からないとかじゃなくて

女 どこだ。  
女 ここは。  
女 ここは、  
女 暗い。  
女 夜。  
女 孤独だ。  
女 何かあるか。  
女 何もない、  
女 誰かいるか。  
女 いない。  
女 なぜだ。  
女 暗い。  
女 夜か。  
女 ここは。  
女 どこだ。  
女 見えない。  
女 誰もいない。  
女 孤独だ。  
女 はじまりだ。  
女 はじまりが悪い。  
女 はじまりが暗い。  
女 はじまりが下手だ。  
女 はじまりをうまくはじまらせないといけない。  
女 そうだから、  
女 どんなに頑張っても、

女 ヘタをうつ。  
女 ソウだからウツ。  
女 ひねくれる。  
女 うまくいかない。  
女 そこへ、  
女 そこへ、  
女 ここから、

女 その場所へ、  
女 うまくつなげるためには、  
女 いや、  
女 つなぐ前の問題。  
女 まず、  
女 考える、  
女 その間にあるもの。  
女 それとこれの間にあるもの。  
女 それの埋め方、  
女 つなぎ方。  
女 どう伸ばせばいい。  
女 逆にどう伸ばしてもらうか。  
女 ここに、  
女 見えない糸があって、  
女 そういうものがあって、  
女 そういう。

女 それを何とか  
女 紡ごうとする。  
女 紡ごうとする以前に、  
女 紡ぐ糸の出し方、  
女 それを出すための前準備、  
女 人に対するときの、  
女 前準備。  
女 それを考える。  
女 でも闇。  
女 何も見えない。  
女 何も感じない。

女 かろうじて、  
女 自分だけがわかる。  
女 いや、感じる。  
女 わかってはいないのだと思う。  
女 自分は。  
女 わからない。  
女 だから闇。  
女 暗い。  
女 クライ。  
女 泣いてもはじまらない。  
女 手繰り寄せる。  
女 相手の糸を手繰り寄せる前に、自分の糸を手繰り寄せる。  
女 自分に自分を手繰り寄せる。  
女 コトバ。  
女 真っ暗だ。  
女 手ごたえがない。  
女 動けない。  
女 動いているのか。  
女 動いていると思う。  
女 わからない。  
女 わからない。  
女 わからない。  
女 わからない。  
女 わからない。  
女 わからない。  
女 わからない。  
女 わからない。  
女 わからない。  
女 わからない。  
女 わからない。  
女 わからない。  
女 わからない。  
女 もっとコトバを！  
女 止まって  
女 しまった。

間

女 息がつまりそう。  
女 何それ。  
女 暗い。  
女 受けねえ。  
女 需要がねえ。  
女 いいじゃんそんなの。  
女 そんなのいいじゃん。  
女 パーティやろうぜー！  
女たち イエー！

音楽鳴る。  
女たち、踊る。  
音楽止まる。

女 なんで自分ら、そんなにそんななの。俺、もう、消え去りそう。

音楽鳴る。  
女たち、踊る。

女 あ、消えた。  
女 ほんとだ。普通、え？え？どこ？マジで？どっかいるんじゃない？とか探したり確認したり、じょじょにみんながそんな空気になっちゃってそれであ、ほんとにいないんだって空気になってから消えてなくなったんだって感じの雰囲気を感じるんだけど、マジで、つかガチでマジで、消えた。  
女 消失。  
女 …男が、いた。  
女 男がいた。  
女 男子がいた。  
女 男がいた。  
女 男性がいた。  
女 男がいた。  
女 1人の男がいた。  
女 1人の男がいた。  
女 1人。  
女 1人の男が消えました。  
女 1人。

女 1人の男。

女 1人。

女 1人。

女 1人。

女、1人、前が出る。

女 で、イマココ。

女 なるほど。

女 え？ここ居間？イマ、居間？

女 部屋の中？

女 グラビア。

女 ティッシュ。

女 下着。

女 ラブDVD。

女 仕事場から戻って、来た！

女 イェスアイドゥー！

女 なんで！

女 チャリリング！

女 アーユーヒア？

女 イェス、イマ、ココにいる。

女 イマ、ココねえ。

女 電気消しっぱ。

女 テレビ消しっぱ。

女 どこにでもある普通のある日、どこにでもいる普通のある男がどこにでもありえる普通の生活をして朝起きて仕事場に向かい正午を過ぎたころ上司の叱責により姿を消した、か。

女 ミステリーだな。

女 叱責による失跡か。

女 はあ？

女 チャリで疾走して失跡か。

女 はあ？

女 ミステリーだな。

女 ねえ、ミス・テリー？

女 名前？

女 なんだい？ニュー・デリー？



女 インドかよ。  
女 答えるの？この難題に。カレーにご飯？  
女 ナンだい！  
女 くだらねえ！  
女 だが犯人はこの中にいる！  
女 そう、その、まさかさ！  
女 真実はひとつ！されどおっばいはふたつ！  
女 じっちゃんがなりかけて！  
女 何に！  
女 いやいやいやいや、そこにいるじゃん。  
女 え？  
女 あ、  
女 ああ。  
女 いるねえ。  
女 そこに。  
女 見えてないけど。  
女 見えね。  
女 部屋の片隅で。  
女 テレビもつけずに。  
女 コトバも  
女 発さず。  
女 ねえ、なんでそこにいるの？  
女 なんで逃げんの？  
女 あ、寝た。  
女 不毛布団にもぐりこんだ。  
女 姿が見えなくなった。  
女 ううううー、ううううー、ううううー。  
女 ねえ、どうして、そういうことになるの？  
女 そうい、そういうことになっちゃったの？  
女 社会？社会のせい？  
女 神的な何か？  
女 環境？  
女 事件？  
女 自然災害？  
女 内紛？  
女 不況？

女 ディスココミュニケーション？

女 ねえ、自分？

女 自分？

女 自分？

女 自分でそうなったかどうかと言われる明らかに自分なんだろうけど自分で選んできた道がイマココにつながっているんだろうけどでも自分だけでやってきたわけじゃなくってそりゃまわりとか家族とか友達とか社会とか宇宙とかもっと大きな何かとかそういったものがすべてつながってできてしまっているもので最終的に自分のことを判断したのは自分なのでそれはわかっているつもりででも自分が決めたのかって言うと 100%そうじゃないともいえるとも思っていて、いや言い訳とかそんなんじゃないで頭では分かっているけれど体が動かないって言うか幼稚園の頃のあのときみたいに体が動かないっていうかそういうアレで今回だってただ単に叱られたことが大きくはなくて今まで積み重なってきたものが表面張力的にそうなって、そういう感じで、そういう。

女 あ、ごめんメールしてた。

女 …あ、寝た。

女 不毛布団にもぐりこんだ。

女 姿が見えなくなった。

女 …わかった。わかったから。

女 え？

女 みんなわかったから。全部。

女 かまってほしいんでしょ。かわいがられたいんでしょ。甘えたいんでしょ。

女 いや。

女 愛されたいんでしょ。無条件に。

女 いや、それは。

女 もうさ、見てて大変なの、面倒なの、滅入るのよ、究極まで言っちゃったらさ、正直そんな人間めんどくさくてめんどくさくてこの世に生きてていいの？ いらんんじゃないの？ もう消えちゃっていいんじゃないの？ とか思っちゃうわけ。

女 でもなんか、平等じゃん。社会。

女 権利とかあるじゃん。

女 生きてたらいけない人間なんていないはずじゃん、世の中。そういう体じゃん。

女 感情的にも。

女 感情を越えた何か的にも。

女 でもさ、実際さ、いるじゃん。

女 そういう人。そういう。

女 じゃ、どうすんのかって話じゃん。

女 もうね、こうなったらね、するしかないわけよ。

女 何を。  
女 応援。応援をするしかないわけよ。  
女 応援ソングとかがんばろうみたいなノリあるでしょ。それやるしかないんじゃない？ってなんの。そう思わない？  
女 実際思おうとも思わないともどうしようもないの。やらざるを得ないのよ、どっちかが折れるしかないのよ。  
女 がんばろうみたいなノリがウソ臭くて偽善的でどうしようもなくつまらなくてもさ。  
女 やるしかないのよ、応援。こちらサイドは。やるしかないのよやるしか。  
女 そういうところまで来ちゃってんのよ。  
女 何がだよ？  
女 何がって何が。  
女 イマだよ。  
女 ココだよ。  
女 ココって？  
女 ココ。イマココ。  
女たち イマ、ココにいるから。あたしたち。  
女 だから、応援してやるよ。仕方ないから。  
女 え、何すんの？マジで？  
女 マジだよ。  
女 ほんとめんどくせーな。  
女 いやだってそんな簡単に応援されてもさ、心に響かないって言うか、ていうかその応援が本当か嘘かはわからないわけで、受け手側がそれを望んでいるかはわからないわけで  
女 じゃあ、どうしたらいいんだよ。どうするのが正しいんだよ！ネットでも何でもググレよ勝手に調べろよ！調べんなよ！情弱気取ってんじゃないぞ！  
女 ほんと女々しいな！女か！  
女 女性か！  
女 女子か！  
女 いや、そうじゃないけど、でもさ、でも  
女 あー！ぐだぐだぐだぐだ言ってんじゃないぞー！  
女 もうやるつつたらやるんだよ！  
女 電気つけろ！  
女 テレビつけろ！  
女 ネットつなげ！  
女 もうこっちは勝手にお前のごこと応援してるから適当に時間つぶしとけよ！  
女 もうどっか行け！  
女 永遠にどっか行け！

女 あたしらそれしかできねーんだよ！バカ！

女 宇宙のかなたに消えろ！バーカ！

女たち おおおーんがくー！

音楽が鳴る。

女たち、踊る。

女たち ♪がんばれ！がんばれ！捨てないで！あきらめないで！もう涙を見せないで！

がんばれ！がんばれ！無理しないで！笑顔を見せて！上を向いて歩いて！

がんばれ！がんばれ！負けないで！やけにならないで！ほんの少しでいいんだよ！

がんばれ！がんばれ！逃げないで！信じ続けて！誰もあなたを責めてないよ！

がながれ！がながれ！がながれ！がながれ！

がながれ！がながれ！がながれ！がながれ！

がながれ！がながれ！がながれ！がながれ！

がながれ！がながれ！がながれ！がながれ！

音楽止まる。

女 脅迫だよこれは。暴力だよこれは。いじめだよこれは。

音楽鳴る。

女 やーいやーい。

女 やーいやーい。

女 えーんえーん。

女 やーいやーい。

女 おい！やめろ！今どきやーいやーいって言いながらいじめるやつがあるか！

女 あん？

女 やえやえーやいやいやい！やえやえーやいやいやい！

女 いやいやいや！いやいやいや！

女 やえやえーやいやいやい！やえやえーやいやいやい！

女 いやいやいや！いやいやいや！

女 おい！待て！何だそれ！ていいうか、やいって何！

女 ヤとイ

女 ヤとイの集合体。

女 やえやえーやいやいやい！やえやえーやいやいやい！

女 やめろ！バカ！さあ行きなさい。

女 うん。シュバツ！  
女 消えた！？  
女 ケツつまんねえ。  
女 女の前だからってかっこつけやがって。  
女 お前だってこっち側なら本当は楽しいんだろ。  
女 仲間に入れてもらえないから拗ねてんだろ。  
女 だからこの現状を打破するために割って入ったんだろ。  
女 もしくは、そうしないといけないと思うお前のエゴのためにその子を助けたんだろ。  
女 強迫観念で助けたんだろ。  
女 そうしないと自分が苦しくなるから助けたんだろ。  
女 それはお前自身を助けたのであって、その女の子を助けたことにはならないんだよ。  
女 よしんば、そうでないと言えるなら証拠を出せよ。  
女 感情のおもむくままか。それは証拠とは言えんな。  
女 それならいじめる側にだっていじめたい、快感を得たい、仲間外れにされたくない、自分が攻撃されたくない、目立ちたくないという欲求があるんだよ。  
女 なんか言えよ。  
女 やい、なんか言えよ。  
女 やーい、やーい。  
女 やいやいやい！やいやいやい！  
女 やえやえーやいやいやい！やえやえーやいやいやい！  
女 ヤミロー！じゃあどうしたらいいんだよー！うわー！  
女 うわー！シュバツ！  
女 消えた！？  
女 ちなみにその女の子は転校しました。関係ないですが。  
女 関係が、ない。  
女 関係が、なかったんだね。  
女 ない、何も。  
女 君と女の子の間の空間には、何も、ない。  
女 だからそういうこと言うなって！  
女 え？ダメかな。  
女 え？  
女 付き合うって言っても、普通に帰り一緒に帰るとか、ご飯一緒に食るとか、あ、これはみんなに見られて恥ずかしいって言うならアレなんだけど、学校休みの日に会うとか、とかとかそういうことなんだけど。  
女 え？あ？いや、そのくらいなら。全然、うん。いいし。宜しく願います。  
女 ほんとに！

女 うん。  
女 ほんとに！ううっぐすんぐすん。  
女 ちょ、なんで泣くの。  
女 うれしいから、だって、うれしいからーぐすんぐすんうわー。  
女 ちょっと引いたものの。  
女 やっぱり、その子のその顔はかわいくて。  
女 普段そこまで意識した子じゃなかったけど、  
女 好きって言われると、相当いやな子じゃなければそれはそれで嬉しいわけで。  
女 だから付き合うことになったのだけれど。  
女 ひそかにドキドキしていたことは自分でもその時気付かなかったのだけれど。  
女 気づいていたのだけれど気づいていなかったのだけれど。  
女 三ヶ月後。  
女 おい、帰らないの？  
女 え、あ友達と帰るし。  
女 え。  
女 何。  
女 いや、  
女 何よ。  
女 俺たち、さ、  
女 うん。  
女 付き合ってる、だよな。  
女 あ、ああー。うん。  
女 うん、いや、だから  
女 あのさ、えっと、付き合ってるんだけど、そういうプライベートはさ、大事だよなわかるよね。だから、それはさ、そういうことで。  
女 そういうって、どういうこと。  
女 だからそういうことだって。  
女 え、それは別れるってこと？  
女 は、なんでそんなこと言うの？何それ？は？別れたいの？  
女 いや、違う違う逆逆。  
女 何なの？何言ってんの？  
女 いや、なんか、距離がさ、このお前と俺の間にある距離あるじゃん。  
女 うん。  
女 そこに、なんか、なんかあるんだけど、ない、ような。糸みたいな、細くて。  
女 何言ってるかわからない。友達待ってるから、急いでるから、じゃ、また聞くから。  
女 ガラガラ、シャン！タッタッタッタ。

女 え、なんかおかしくね？関係、あるでしょ。関係。  
女 それはあなたが悪いのよ。  
女 え？いや、だって。  
女 それはあなたが悪いの。  
女 え、僕？  
女 そうよ。お母さんだって大変なの。ご飯作ってお洗濯してお掃除してワイドショーも見なきゃいけないし。  
女 ワイドショーいらんないじゃん。でも。僕、正しかったし。  
女 でもじゃない！ママにわがままばかり言わないでちょうだい！いつまでも子供のまま？なすがまま？  
女 ママ、ままママ、まあまあ。  
女 こっちだって大変なの！ママだって女なの！人妻なの！団地妻なのよ！わかってよ！  
女 うん。  
女 ほんとに分かってんの？  
女 うん。わかってる。  
女 わかってない！わかってないでしょ！お母さんわかるんだから、あんたはいつもわかってるふりばかりして！大げさなことばかり言って！意味分からないことばかり言って！  
女 え、言ってないし。  
女 男の子やろ。文句ばかり言うな！男の子やろ。文句ばかり言うな！男の子やろ。文句ばかり言うな！  
女 …うん。  
女 分かったら早く宿題し。  
女 うん。  
女 早く！  
女 はい。  
女 …おかしいよ、なんか、そんなん。へその緒キレた瞬間から他人ですか。う、う、うえええー。  
女 ファイト！  
女 ひっく、うん？  
女 ファイト！負けるな！男の子！  
女 ひっ、うん。  
女 ほら、いじいじしてるとモテないゾ！  
女 うん、うん。  
女 ほら元気出して！いつまでも泣いてちゃダメだよ。嫌いになっちゃうゾ！  
女 嫌いに、嫌いにならないでえ。

女 いつも笑顔でいててえ。  
女 いつもこっちを向いててよ。  
女 もう少し露出度の高い水着着てよ。  
女 もうエッチなんだから。  
女 えへへ。  
女 でも私ももうお年頃だからそろそろアイドル路線は卒業。  
女 え。  
女 次号からはなんと  
女 え。  
女たち 巻頭グラビア特集で大胆露出！  
女 何だー！そんな！そんなバカな！裏切られた！ありえない！そんなバカなことがあ  
っていいのか！いやよくない！  
女 反語。  
女 あの子がそんなことをするなんて！きっと自分の意志じゃないはずだ！クソッ！  
女 シット！  
女 嫉妬じゃない！純粋なピュアな気持ちで俺は！君のことを！  
女たち 巻頭グラビア！  
女 クソッ！神めー！欲しいー！欲しすぎる。なぜだ！なぜ神は俺をこんなにも苦しめ  
るのだ！苦しい！胸が張り裂けそうだ！どうにかなってしまいそうだ！胸の奥に何とも言  
えないやりきれなさ！どうすることもできない！衝動だ！だけど、特にどうすることもで  
きない！俺に出来ることはもう！走るしかない！俺に残された自由は叫びながら走るこ  
とだけだ！うおおおー！  
女たち ガチャリング！バタリング！チャリリング！

女たち 右足 片足 手足 左足 右足 片足 手足 左足  
右足 片足 手足 左足 右足 片足 手足 左足  
右足 片足 手足 左足 右足 片足 手足 左足  
右足 片足 手足 左足 右足 片足 手足 左足

女 両手に  
女 力を  
女 引き込む  
女 頭  
女 前に  
女 のめって  
女 首降る  
女 腰降る



女 土蹴り

女 地面

女 地球

女 ズドン

女 風の

女 壁を

女 破って

女 視界

女 止まって

女 進んで

女 後ろに

女 進んで

女 去って

女たち 右足 片足 手足 左足 右足 片足 手足 左足

右足 片足 両足 左足 軸足 ぬき足 差し足 忍び足

地面 地球 台風 マグマ 風に 吹かれて そのまま このまま

女 キー！

女 ザ！

女 コンビニの店員さんの自宅の前！

女 ストーキング！

女 すごいな！

女 やりすぎだろ！

女 見上げたもんだよ！

女 窓を見上げる！

女 窓を見上げる！

女 窓を見上げる！

女 窓を三回見上げる！

女 ううううー、ううううー、ううううー！

女 どうしてこの世はこんなにうまくいかないんだー！だー…だー…だー…

女 再びチャリリング！

女 そんな矢先に

女たち トラッキング！

女たち パパーンパパーン！キキー！

女 うわあ！

女 ガシャーン！

女 うわあうわあうわあ…

女 ごろごろごろごろ！

女 ころ。

女 気をつけろ！どこ見てやがんだ！バカ野郎！

女 おみやげは！無事故でいいよ！お父さん！

女 ブロロロロ！ブロロロロロ！ブロロロロー…。

女 …うう、あー。どうしてえ。地面冷やっこい。頭ガンガンする。何これぬるぬるする。ああ、砂利がじゃりじゃりする。つながりたいたけなんだけど、なんですけど。どうしても、事故る。なんなのこれ。もう、目が、目が、目が、目が、目が、目が、目が、目が…

女 いや、だから言ってんじゃない。無理だって。

女 …やっぱり無理なんですか。

女 無音。

女 孤独。

女 がんばってひたすら言われてもさ、無理なもんは無理だってわかってるしさ、平等だ平等だって言われてもさ、そこに格差はあるし、しょうこりもなく、超現実的に。それを無理して押し込めてなんとかかんとかやっているけどどうしようもないその差異を埋めることはできなくて、でも何とかしたらできるはずだって自分の努力が足りないだけだってでもそれは理想主義すぎて現実を見れてなくて現実はずっとできなくてそれが当たり前で普通でもその現実を少しでも変えられたらって思ってもやっぱり無理なんです。できないんですやる気が出ないんですいや本気のやる気のポテンシャルはあるはずなんですでもそのやる気を出すためのやる気が出ないんですこれはもうどうしようもなくですだとするとそこに頑張れ無理すんな上向け笑えあきらめるなって言われてもそれは土台無理って話でああ、無理って言葉も本当はネガティブイメージがわき起こるから使いたくないんだけどそれはもう圧倒的に無理でかといってがんばらなくていいよありのままの自分でもいいんだよって言われたとしてそれは本当にいいのかそのままの自分でい続けるとそれはもう緩やかに墮落していくだけでどんどん止まっていくだけでスピードがどんどん遅くなってでも時間だけはどんどん過ぎて行ってそれはもう緩やかに死んでいくのであってある種のロングレンジの自殺を試みているようなものであってそういう感じでそういう。

女 あ、ごめん、考え事してた。

女 あ、そう。

女 なんかあったかいもの食べたいなあって。

女 …で？

女 で、と言われましても。

女 で、どうしたいの？

女 …どうしたいんです、でしょう。

女 どうなりたいの？  
女 …苦しくなかりたいす。  
女 それは逃げじゃなくて？  
女 …逃げたくは、ないすけど。  
女 戦えるの？  
女 いや確実かってと勝てるって確証ないすけど、でも。  
女 戦う気はあるんだ。  
女 …まあ一応。ていうか一応、はい。いうてますけども。  
女 応援されるのはいや？  
女 応援されるとうれしいです。でも、応援されすぎるとちょとしんどくって。  
女 はあ？じゃあ、どうしたらいいの？  
女 どうしたらいいの？  
女たち 私たち、どうしたらいいの？  
女 …責めないで、ください。  
女 責めてない、し、責めて、ないよ。  
女 …待っててください。  
女 待つ？  
女 いつまでよ？  
女 …わかんないす。でもいつか、いつか必ず。その気はあるんす。  
女 期限決めずに待つって言われてもさ。  
女 …無茶言っているのはわかってます。でも、その、待っていてください。  
女 もう消えかかっているのに？てか、ココにいる人あんた見えてなくね？  
女 …そうかもしれないす。でも消えかかっても、本当は、本当の本当はやっぱり俺、あの僕、消えたくないんです。消えたくないんです消えるのは、誰の、この世界の誰にも、その何者にも、気づかれないうって感じで、忘れ去られてしまう感じで、認識されなくなってしまう感じでその感じなのは、本当に、イマ、ココにいる全部から見えてないのは、いやで、本当にいやで。本当は、本当に、つらくて、つらい。ので、いやで。いやだ。

間。

女 でも、さ、  
女 ねえ。  
女 あたしらは見えるけど。ねえ。  
女 うん。

間。

女 帰ろっか。

女たち、去る。

間。

女 …それさー自分は？

女 …え？

女 誰にも気づかれなくなって、誰からも認識されなくなって、とても孤独だと感じるんですよ。そう考えるんしょ。そう、思うんでしょーよ。

女 その時、そう感じる、考える、思う自分は？

女 自分は、認識しているの？自分をさ。

女 …しているような気がします。いや、どうなんだろう、いや、自分が、自分を、こうしゃべってる時の自分がつてことですよ、しゃべって考えてて自分のことを、っていう自分は、あ、たぶん、自分を、意識は、してます、ね。

女 それってさ、

女 世界中の

女たち 全員が

女 にはならないんじゃないか？

女 え。

女 だってさ、

女 自分が

女 い

女 ないとき、

女 自分

女 は考えられ

女 なくね？

女 だからさ、

女 消え去りそうに

女 は

女 なって

女 もさ、

女 そう考え

女 てたりする限

女 り、

女 自分は

女 消えないんじゃない  
女 の？  
女 はあ。  
女 よく、わかんないすけど。  
女 この言葉が  
女 誰の言葉なのかも  
女 それが正しいことなのかも  
女 ただの甘ったれた言葉なのかも  
女 よく  
女 わかんないすけど  
女 ただ、  
女 そう言っていたり、  
女 アーユーヒア？  
女 答えたりしている  
女 アーユーヒア？  
女 この  
女 イマ  
女 ココ  
女 にいる  
女 というのは、  
女 確かに  
女 確かな  
女 気がする  
女 コ  
女 ト  
女 バ。  
女 この、  
女 イマ、  
女 ココ、  
女 にある  
女 コトバ。  
女 いや、  
女 確かだと  
女 思う  
女 確かだ  
女 確かに

女 イマ。  
女 確実に  
女 ココ。  
女 イマココ。  
女 俺は  
女 イマココ。  
女 アーユーヒア？  
女たち 俺は（私は）（あなたは）イマ、ココにいる。

音楽が鳴る。  
女たち、男がゆっくりと立ち上がるのを見る。

女 ゆっくり。  
女 ゆっくりと。  
女 立つ。

女たちもじょじょに立つ。

女 カチャリ  
女 チャリ  
女 グ  
女 …ガチャンジャン！  
女 素早く  
女 自転車が立つ  
女 グ  
女 ググ  
女 グリップにぎる  
女 ザッ  
女 チャリにまたがる。  
女 ゆっくり  
女 ゆっくりと  
女 前を向く  
女たち 右足…  
女 ペダルを踏む  
女 チャリが  
女 動き、出す



女たち 右足 片足 手足 左足 右足 片足 手足 左足

女 暗い。

女たち 両手に！

女 見えない。

女たち 力を！

女 感じない。

女たち 引き込む！

女 心細い。

女たち 頭！

女 真っ暗だ。

女たち 前に！

女 いるのか！

女たち のめって！

女 いないのか！

女たち 首振る！

女 いるのか！

女たち 腰振る！

女 どっちなんだ！

女たち 土蹴り！

女 誰かいるのか！

女たち 地面！

女 誰かいるの！

女たち 地球！

女 ねえ！

女たち ズドン！

女 どうなの！

女たち 風の！

女 誰かいるの。

女たち 壁を！

女 暗いわ。

女たち 破って！

女 とても。

女たち 視界！

女 寂しいわ。



女たち 止まって！

女 静かだわ。

女たち 進んで！

女 何なの。

女たち 後ろに！

女 ここは。

女たち 進んで！

女 どうして。

女たち 去って！

女 暗いよ。

女たち でも！

女 暗いのはいやだ。

女たち でも！

女 いやだよ。

女たち でも！

女 怖い。

女たち でも！

女 自分の声しか聞こえない。

女たち でも！

女 闇だ。

女たち でも！

女 少し、少し何かがともったような気がした。

女 コンビニまで！

女 あの子まで！あと 10 分ー！

女 気のせい。

女たち それでも！

女 誰もいない。

女たち だけど！

女 誰もいないかどうかは見えないとわからない。

女たち だから！

女 見えたとしても本当にそこにいるのかはわからない。

女たち だけど！

女たち 動けない。

女 だがしかし！  
女たち 何か見えた気がする。  
女 空を切る。  
女 手が。  
女たち 手をにぎっててください。  
女たち 無音。  
女たち アーユーヒア！アーユーヒア！アーユーヒア！  
女たち 批判！  
女たち でも！  
女たち 否定！  
女たち それでも！  
女たち 拒否！  
女たち だけど！  
女たち 誰も！  
女たち 彼も！  
女たち あの人も！  
女たち 否定！  
女たち だがしかし！だがしかし！  
女たち チャリリング！ただただチャリリング！  
女 コンビニまで！  
女 イマを越えろ！  
女 未来まで！あと5分ー！

女たち、奥から大きな紙を取り出し、振る。  
クレヨンを取り出す。

女 風が。  
女 聞こえない。

女たち、紙にクレヨンで塗りつぶしていく。

女たち 空気はある、あるはずだ。息をしている。息は聞こえる。自分の息。  
女 これは、本当か！本当ではないとするのであれば、何！  
女 暗い。  
女 大丈夫！  
女 触ってほしい。触ってほしいよ。どうしてわかってくれない。わかろうとしてくれな

い。ここは、暗い。とても。

女 ひとりだ。

女 大丈夫！

女 見えない。感じない。とても、つらい、感じが残る。自分はある。誰かはいない。どうしようもない。

女 大丈夫！

女 なぜだ。わかってくれない。そういうものか。そういうものなら仕方ない。しかし。暗い。闇だ。これは、息をしているのか。

女 大丈夫！

女たち この手は。

女 握ってください。

女たち この手は、

女 あるのか。

女 本当に。本当に、あるのか。わからない。息はあるのか。わからないです。ごめんなさい。

女たち 大丈夫！

女 誰も。いるのに。そこにいるのに。何もわかってくれない。ここに、いるのに。誰も気づいてくれない。孤独だ。生きているのか。本当に。そうは思えない。暗いからだ。寂しいからだ。誰もいない。理解する者がいない。ここは、どこだ。どこなら納得できる。どこでもない。やはり。本当に暗い。孤独で暗い。暗い、先に進めない。先が、見えない。

女たち イマ、ココにいる！イマ、ココにいる！

女 教えてくれる者はいない。どうやって、それをわかる。感じない。見えない、聞こえない。触れることはできない。何も、誰も。暗くて。よく見えない。ずっと。誰かが、光を差し出すようにみえて、またその先でそっと消えた。誰もが。いない。消えていく。本当に。どこかにいる。見えない。でもいる。

女たち イマ、ココにいる！イマ、ココにいる！

女 どうしてそっとしてくれない。でも見えない。し、感じない。感じないのに、暗く孤独だと感じる。そこにあるものを否定しているから、だから向こうからも否定される。お互いがお互いを否定し合う。拒否しあう。非難し合う。なぜ。

女 その方がその居場所を感じられるからよ。本当に。孤独なのに。誰もいない。何かは共有されることはない。共有という概念すらわからない。おそらく。おそらくという言葉

も、ない。絶対も、ない。おそらくない。暗く聞こえない。

女たち イマ、ココにいる！イマ、ココにいる！イマ、ココにいる！イマ、ココにいる！

女 底だ。底を感じる。足の、しびれた感じ。これは、立っている。立っているの座っている、のか、寝ているのかすらもわからない。暗い。見えない。何もできない。本当にここにいるのか。いないのか。本当に。足はある。手もある。口も、声が聞こえる。自分の声だ。音だ。何か聞こえたような気がした。遠くで。遠く、とても遠く。

女たち おい！お前！がんばれ！もしくはがんばるな！どっちでもいい！

私らは！ココにいるからな！

女 なくなった。消えていったわ。それは、消えていったわ。最初から、何もなかったんじゃないか、ないかな。おそらく。本当は、あった。人はいた。それでも見えない、聞こえない。触れあえない。それならいっそのこと大ぶりに叩いてほしい。それでも、そこに、誰かがいることが分かる。誰か。いる。痛みが証拠だ、それは。そうよ。足だ。足はある、ここに。どうぞ。どうぞ、叩いてみて、叩いてみてください。痛みがあれば、いる。誰か。いる。

女たち おい！お前！がんばれ！もしくはがんばるな！むしろどっちでもいい！

私らは！ずっと！ココにいてるからな！

女たち コンビニは目の前ー！

女たち、塗られた紙をツラへ持ってきて広げる。紙をうねらせる。

女 声は聞こえる。

女 痛みを感じてきた。

女 気がする。

女 痛みがじわじわと

女 広がっていく。

女 これは、足か。

女 足だ。

女 足が痛む。

女 そうです。

女 誰かいるのです。

女 その誰かは  
女 きっとあなたを  
女 包み込んでくれる。  
女 暗い。  
女 浅はかな  
女 希望。

女 浅はかなことは  
女 浅はかで。  
女 とても、  
女 本当に、  
女 おそらく、  
女 あり得ない。  
女 あり得ないまま、  
女 朽ちていく。

女たち どんどんと、

女 誰かに  
女 何かを  
女 言われようと、  
女 それは  
女 全部  
女 否定で。  
女 わからない。  
女 わかろうとも  
女 できない。  
女 そんなこと。

女たち その思いを口に出すことはできない。どう出しているかわからない。だけど何か  
が逆流している！

女たち、紙を後ろから破る。

女たち、奥から持ってきた長い布をそのまま八方に伸ばす。

女たち おい！お前！がんばれ！もしくはがんばるな！もうどっちでもいい！  
私らは！きつとずっと！ココにいるからな！

おい！お前！もうなんでもいい！もうなんでもいいんだぜ！  
私らは！ただ！もうそれだけ！ただ！もうそれだけだからな！  
おい！お前！がんばれ！もしくはがんばるな！もうどっちでもいい！  
私らは！きっとずっと！ココにいるからな！  
おい！お前！もうなんでもいい！もうなんでもいいんだぜ！  
私らは！ただ！もうそれだけ！ただ！もうそれだけだからな！

暗転

おわり